

IBS 研究発表会

主催：(財)計量計画研究所

日時：2006年7月18日(火) 10:00~12:30

場所：スクワール麹町

IBSは、現在様々な研究活動に取り組んでおり、その研究成果を広く披露し意見交換を行い、IBSの研究活動のより一層の充実を図ることを趣旨として毎年7月に「IBS研究発表会」を開催しております。

本年度は、2006年7月18日(火)にスクワール麹町にて、「IBSフェローシップ発表会」と同時に開催し、約200名の方にご参加頂きました。

「IBS研究発表会」では、IBS研究員より以下の5題の発表を行いました。

- ① 都市の課題に対応した新たな物資流動調査
～第4回東京都市圏物資流動調査より～
柴谷大輔(経済社会研究室)

東京都市圏では、それぞれ10年ごとにパーソントリップ調査と物資流動調査を実施し、東京都市圏における総合都市交通体系のあり方を提言してきており、平成15、16年度には第4回東京都市圏物資流動調査を実施し、「物流からみた東京都市圏の望ましい総合都市交通体系のあり方」をとりまとめた。

都市・交通の課題に対応するため、今回、抜本的に改良した調査体系とそのねらい、及び、調査結果から明らかになった都市の課題を紹介し、とりまとめた物流施策の概略を紹介した。

- ② 名古屋圏における環状道路
～歴史的経緯と整備効果～
佐藤徹治(経済社会研究室)

名古屋圏では、2005年3月に東海環状自動車道の東部区間(73km)が供用開始となるなど、東京圏、大阪圏と比較して、環状道路の整備が進んでいる。

名古屋圏における自専道の環状道路である名古屋高速都心環状線、名古屋環状2号線、東海環状自動車道を取り上げ、その整備の変遷、計画担当者へのヒアリング等に基づく計画の歴史的経緯、シミュレーション結果に基づく整備効果(交通への影響、地価への影響、社会経済への影響)等について概説した。

- ③ 社会資本整備における紛争解決手法の研究
～「メディエーション」について～
荒井祥郎(都市政策研究室)

家庭内の争い、企業の労使紛争、近所同士の揉め事など

の紛争を回避、解決する一手法として「メディエーション」がある。

この「メディエーション」をわが国の社会資本整備に導入することを提案し、米国の経験や状況を踏まえて、メディエーション導入にあたっての論点を整理し、あり方をとりまとめた。

- ④ 敬語関連研究の評価と展望～「敬語・敬意表現研究」から「配慮の言語行動研究」へ～
丸元聰子(言語情報研究室)

従来、敬語の知識や使用の方法については語句や表現を中心に研究、教育されている。近年その見直しとして提唱された審議会答申の「敬意表現」についても本質的には変わらない状況である。

言語行動の状況や人間関係、対人感情を重視し、人が誰かの言動に対して「配慮がない」と考える事例を収集、分析し、「配慮の言語行動」の諸相を明らかにする。これにより「ある状況で何をどのように言うべきでないか」という具体的なコミュニケーション指針を提案することができる。特に分析の枠組みについて報告した。

- ⑤ 東京都市圏PT調査事後評価
～自動車交通の予測結果の実際との比較分析～
杉田 浩(戦略開発研究グループ)

東京都市圏では過去4回パーソントリップ調査が実施され、総合都市交通計画の策定が行われている。4回のパーソントリップ調査実施時の時代背景、計画課題、実査方法、予測手法等については、「新都市」58巻2号(2004年)に取りまとめ掲載したが、結果の事後評価を報告するまでは、十分に至らなかった。

その後、IBS自主研究として事後評価についての研究を実施し、今回その研究成果の一部を、ここに報告するものである。事後評価といつても広範にわたるため、今回は、H10PTの交通需要予測(2000年)結果をH10PTの実績値(1998年)と比較し、予測値と実績値の乖離の要因を明らかにした。

2007年度は、2007年7月17日(火)にアルカディア市ヶ谷(私学会館)にて「IBS研究発表会・フェローシップ発表会」を開催する予定です。ご案内は詳細が決まり次第、ホームページに掲載する予定です。多くの皆様方のご参加をお待ち申し上げております。

(総務部総務課 谷貝 等)